

「双葉町の希望」を伝えていくために  
～町の将来像を考える～  
(第1回 人の復興部会)

平成28年7月



福島県双葉町



## ●人の復興部会の目的

- ①町民の今後の将来像(5～10年後)について考えます。
- ②「町民の希望」を将来に伝えていくために、大切にしていきたい「町民の暮らし」や「町民の思い」について、みなさんとイメージを共有します。

# 人の復興部会の進め方

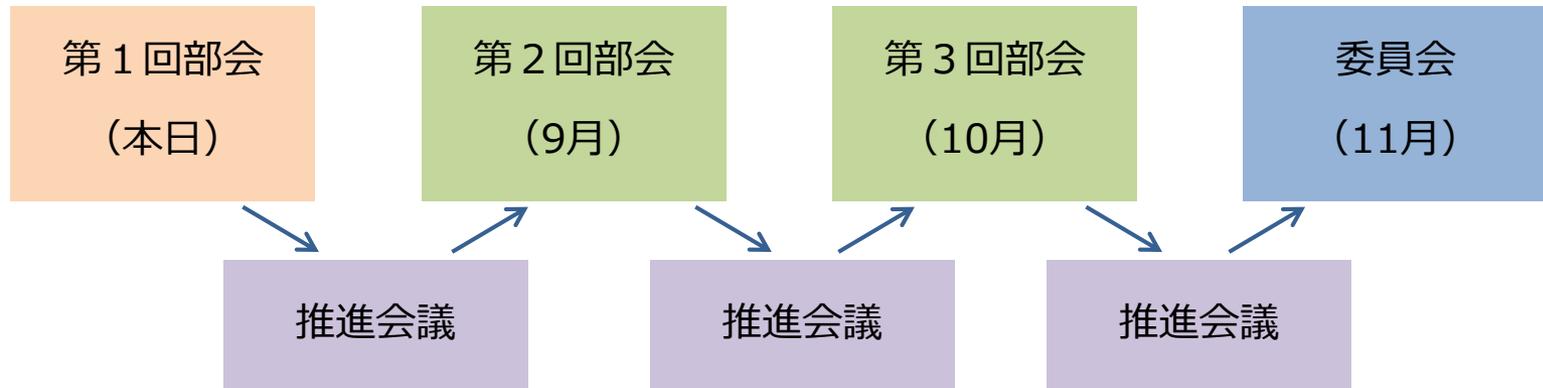
## ●人の復興部会の進め方

- ①人の復興部会は3回です。
- ②各回でご意見をいただきたいテーマを設定いたします。  
(または、みなさんのご興味があるテーマをご議論いただきます。)

※町の復興部会、人の復興部会の内容については、適宜情報を共有いたします。

## ●人の復興部会の成果

- ①みなさんからいただいたご意見は、庁内の復興まちづくり計画推進会議でさらに検討を深めて計画に反映いたします。
- ②3回の部会が終了後、概要を委員会(11月予定)で報告します。



# 人の復興部会の進め方

昨年同様に、テーマ案の中から町民がテーマを自由に選択し(投票により決定)、議論を行う。

## 第1回部会 (本日)

私たちが希望を持てる今後(5~10年後)の暮らしを考える。  
内容(ワールドカフェ方式で実施):

- ①私たちの暮らしを取り巻く環境は今後どのように変化していくでしょうか。
- ②私たちは今後、どんな暮らしをしていきたいでしょうか。
- ③将来の希望を実現するために、どんなことに取り組んでいくと良いと思いますか。

## 第2回部会 (9月)

出し合った意見について、議論を深めるテーマを決め、課題や解決策を考える。

内容:

- ①第1回ワークショップの課題や提案について確認
- ②重要であると思うテーマを全員で決定
- ③参加したいテーマに、グループに分かれて議論

## 第3回部会 (10月)

出し合った意見について、議論を深めるテーマを決め、課題や解決策を考える。

内容:

- ①第1回ワークショップの課題や提案について確認
- ②第2回に取り扱わなかった課題について、議論を深めるテーマを決定
- ③参加したいテーマに、グループに分かれて議論

# 双葉町復興まちづくり計画(第一次)の計画骨子

双葉町復興まちづくり計画(第一次)では、町民の生活再建と町の復興に向けて、町が取り組むべき施策として、以下の計画骨子を策定しました。

・双葉町復興まちづくり計画(第一次)の計画骨子

不自由な避難生活の改善に向けた取組

町民一人一人の生活再建の実現に向けた取組

生活再建する場所の選択肢の一つとして「双葉町外拠点」(仮の町)の整備

町民のきずなの維持・発展に向けた取組

ふるさとの荒廃を防ぎ、ふるさとへの思いをつなぐ取組

ふるさとへの帰還と双葉町の再興に向けた取組

町民主体の復興に向けた取組

出所:双葉町復興まちづくり計画(第一次)概要版

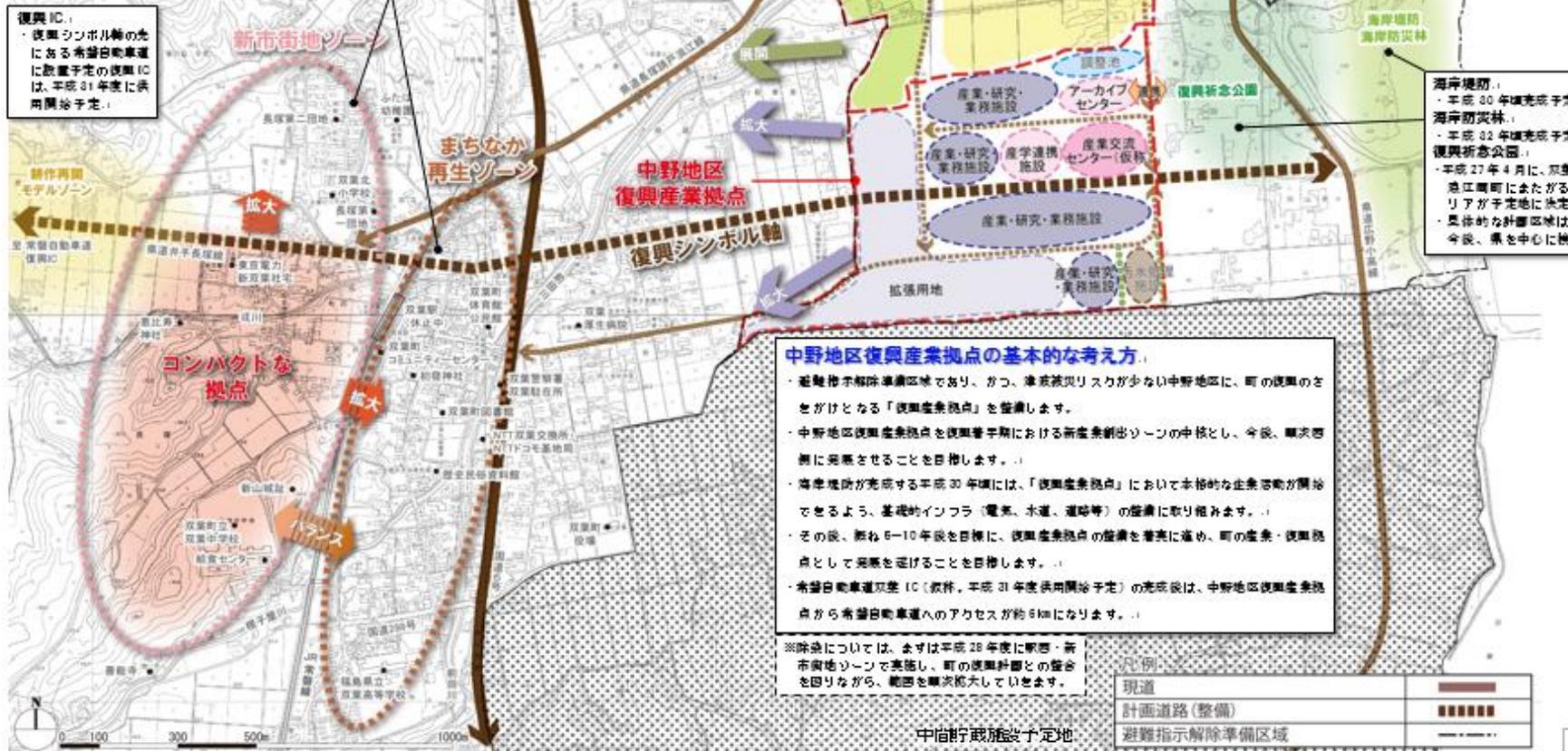
# 現在双葉町内で計画されている「町の復興計画」の状況

**駅西・新市街地ゾーン、駅東・まちなか再生ゾーン**  
 (取組の考え方)  
 町の復興を推進するには、復興産業拠点との連携を考えつつ、住宅地の確保を急ぐことが必要です。そのため、放射線量が低減するとともに、まとまった町有地がある新市街地ゾーンに、住宅地の早期整備を目指します。また、医療・福祉施設、商業施設、公共施設等の生活関連施設についても、着実に整備を進めます。...

**取組の概要**  
**駅西・新市街地ゾーン**  
 ・平成28年度に除染を実施  
 ・住宅地の整備を目指し、あわせて生活関連施設についても着実に整備  
 ・中野地区復興産業拠点と連携し復興の核を形成  
**駅東・まちなか再生ゾーン**  
 ・古き良き双葉町の街並みの再生(歴史のある建造物の修繕・再建、外観を工夫した公営住宅の整備等)  
 ・既存中心市街地の再整備(被害を受けた建物の解体撤去、街区再整備等)

**復興IC**  
 ・復興シンボル軸の先にある常盤自動車道に設置予定の復興ICは、平成31年度に供用開始予定。

**再生可能エネルギー・農業再生モデルゾーン**  
 ・再生可能エネルギー  
 効率的なエネルギーをもち、自然の恵みを再生可能エネルギーによる拠点として活用(太陽光発電等)..  
 ・水田再生活用拠点  
 農地を営むがした農業再生と環境の回復(肥料作物や飼料用米の作付等)..  
 ・次世代農業チャレンジ拠点  
 新しい農業・新たな産業創出(施設園芸、生果型太陽光発電等)。



**中野地区復興産業拠点の基本的な考え方**

- 避難指示解除準備区域であり、かつ、津波被災リスクが少なく中野地区に、町の復興のまきげとなる「復興産業拠点」を整備します。
- 中野地区復興産業拠点を復興着学期における新産業創出ゾーンの中核とし、今後、順次西側に発展させることを目指します。...
- 海老地防が完了する平成30年度には、「復興産業拠点」において本格的な企業活動が開始できるよう、基礎的インフラ(電気、水道、道路等)の整備に取り組みます。...
- その後、概ね6-10年を目標に、復興産業拠点の整備を着実に進め、町の産業・復興拠点として発展を遂げることを目指します。...
- 常盤自動車道双葉IC(仮称、平成31年度供用開始予定)の完成後は、中野地区復興産業拠点から常盤自動車道へのアクセスが約5kmになります。...

※除染については、まずは平成28年度に駅西・新市街地ゾーンで実施し、町の復興計画との整合を図りながら、範囲を順次拡大していきます。

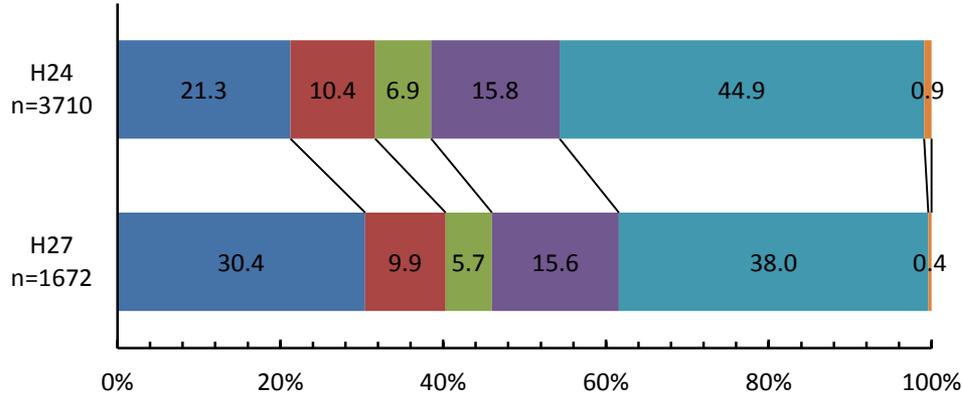
凡例

現道	———
計画道路(整備)	—————
避難指示解除準備区域	.....

中信行政施設予定地

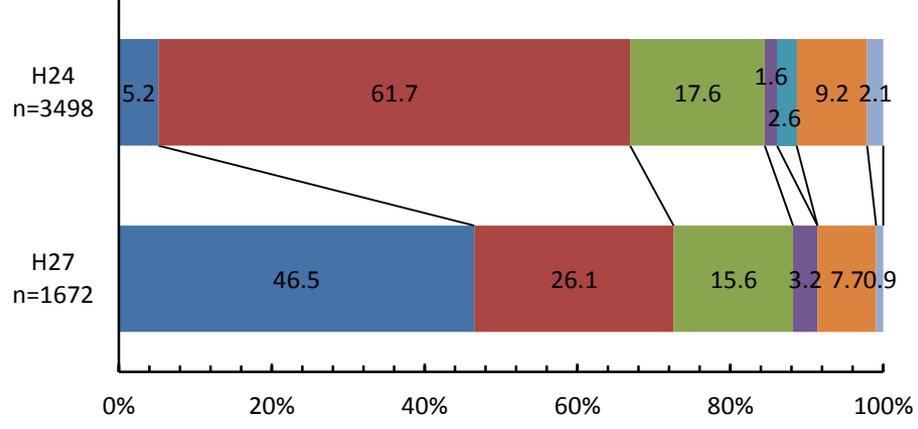
# 町民の避難生活について

・現在の避難先



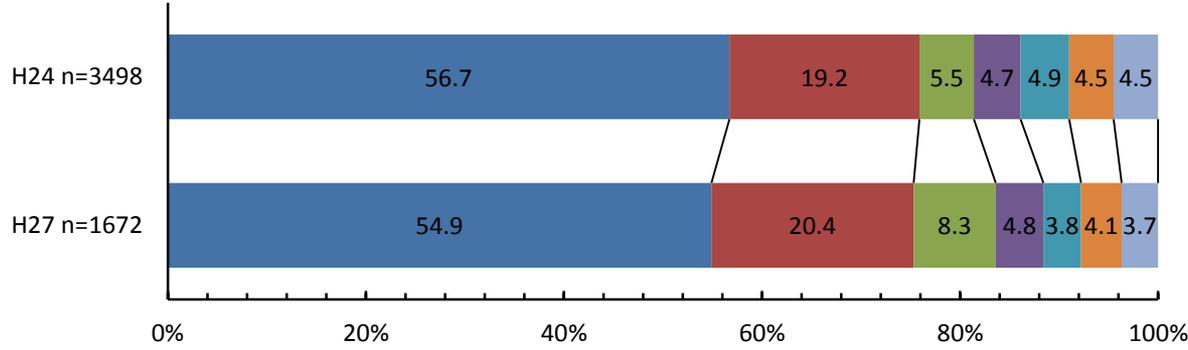
■ いわき市 ■ 郡山市 ■ 福島市 ■ 県内その他の自治体 ■ 県外 ■ 無回答

・現在の住居形態



■ 持ち家 ■ 仮設住宅 ■ 民間賃貸住宅 ■ 公営住宅 ■ 避難所 ■ その他 ■ 無回答

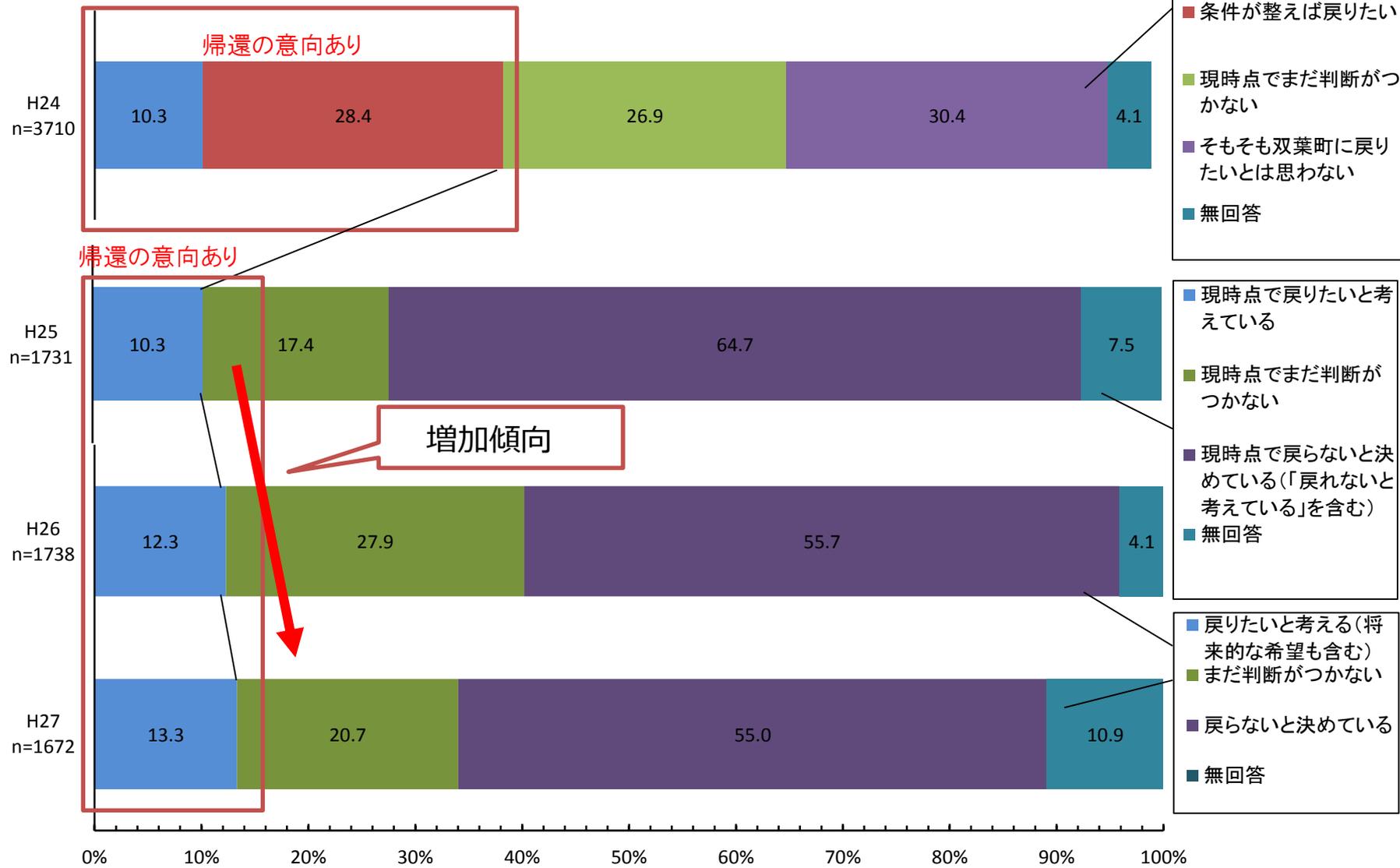
・現在の職業



■ 無職 ■ 会社員 ■ 自営業(継続中, 休業中含む) ■ 公務員 ■ パート・アルバイト ■ その他 ■ 無回答

# 町民の避難生活について

・帰還の意向



# 双葉町を取り巻く主な状況

平成28年夏頃	「帰還困難区域の取扱方針」を政府が発表
// 秋頃	JR双葉駅前コミュニティセンター供用開始
// 年内	双葉町復興まちづくり計画(第二次)決定
// 年度内	「JR双葉駅西側・新市街地ゾーン」の除染実施
平成29年度内	勿来酒井復興公営住宅への入居開始
平成30年度頃	海岸堤防完成
//	「中野地区復興産業拠点」で一部企業活動開始
平成31年度頃	復興インターチェンジ供用開始
//	復興シンボル軸(県道井手長塚線等)供用開始
//	JR常磐線全線開通
平成32年度頃	海岸防災林完成
//	復興まちづくり計画(第二次)の見直し
平成32年度末	復興・創生期間終了、復興庁廃止

# 希望を持てる今後(5~10年後)の暮らしを考えよう

問1. 私たちの暮らしを取り巻く環境は今後どのように変化していくでしょうか。



問2. 私たちは今後、どんな暮らしをしていきたいでしょうか。



問3. 今後の将来の希望を実現するために、どんなことに取り組んでいくと良いと思いますか。